

議会のうごき

総務省過疎対策室長と

意見交換

去る5月12日、前文教経済常任委員会は、東京都渋谷区で開催された関東大崎会の総会に出席し、関東地域に在住される本町出身者との親睦・交流を図って参りました。なお、大崎町特産品フェアも同時開催されました。

また、翌13日は、国会議事堂における研修、事務調査を行いました。地元選出議員の農林水産委員長室において、総務省地域力創造グループ過疎対策室長、山越伸子氏より、過疎地域の現状と取り組み等について説明を受け、意見交換を行いました。



過疎対策室長による説明・意見交換

研修&事務調査

5月22日、市町村議会議員研修会が開催されました。研修会は山梨学院大学経営情報学部教授の宮

塚利雄氏が「最近の日朝関係と北朝鮮の現実」、鹿児島県農政部長の動きとTPP協定交渉の現状と「見直し」という演題で講演をされました。

宮塚氏は、日本にとって朝鮮半島の韓国と北朝鮮は、世界で最も「歴史的、地理的に近い国」であり、韓国とは1965年に日韓条約を結び国交正常化したのが、北朝鮮とはいまだになく、現状からして北朝鮮との国交正常化が第一と話されました。

次に引地氏は国際化の動きとして、これまでの農業の国際交渉の経緯や、TPP（環太平洋連携協定）交渉の現状・見通しでTPP交渉参加国、我が国のTPP交渉への対応、TPPのメリット・デメリット、交渉参加国との協議など、詳しく説明されました。

翌23日は、日置市の大和電機(株)やまとソーラープラント伊集院発電所において、太陽光発電システムの概要について説明を受けました。ここは鹿児島県で第1号の発電所として、昨年の7月1日から稼働して、敷地面積約23,000平方メートルで約

4,200枚のパネルを使い、1,000KWを発電しています。今後、太陽光発電は地球環境と人にやさしいエネルギーとして期待されています。



大和電機(株)伊集院発電所にて、ソーラーパネルの視察調査

全国議長・副議長研修

去る5月28・29日、東京メルクホールで開催され、約1,300名が参加しました。

研修会は東京大学院・金井利久教授の「町村議会に期待する」と題しての基調講演と、ジャーナリストの松本克夫氏をコーディネーターに4名のパネラーでシンポジウムが行われ、議会基本条例等、住民への説明責任の重大さを感じました。

県外視察研修

去る7月10日から12日にかけて、北海道ニセコ町と恵庭市にお

いて視察研修を実施しました。ニセコ町は、『まちづくり基本条例』を全国で最初に制定した町で、町民すべてがまちづくりに関する情報を共有し、この町に住むことを誇りに思えるまちづくりを目指しています。

恵庭市では、株式会社アレフの環境行動計画（経済産業省資源エネルギー庁長官賞受賞）について研修しました。当社は、地元のバイオマス（生物資源）や地中熱、太陽熱、工場廃熱等を活用し、工場内の灯油使用量1日当たり1千リットルの削減とCO2排出量50%削減を実現しています。

まちづくりの実践やバイオマスの活用など、本町でも身近なテーマであり、有意義な視察研修を行うことができました。



ニセコ町にてまちづくり基本条例の研修